

短期大学部 介護福祉学科 企画 「介護フェスタ」

～見て・触れて・気づく 介護福祉の魅力発信・啓発・体験型イベント～

報告者：中 村 直 樹¹⁾

1. 事業の概要

本事業は、本学が令和元年度青森県 福祉・介護人材確保対策事業補助金（以下、補助金とする）を申請・取得し、令和元年11月2日から11月17日にかけて全3会場5日間にわたり開催したものである。厚生労働省が制定している毎年11月11日（「いい日、いい日」）の「介護の日」に併せて、地域住民や介護福祉に興味をもつ小・中学生、高校生等を対象に、介護のことを知り、理解を深め、一緒に考えることを目的に、平成29年度より企画・実施している。以下、今年度事業の詳細について報告する。

2. 事業実施の背景

高齢化が進む中で介護サービスを安定的に提供していくためには、介護人材の確保は重要課題の一つである。また、平成28（2016）年6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」に基づき、少子高齢化と人口減少という、これまでに経験したことの無い危機に対処するために、国は、こうした課題解決への取組として、国と地域が二人三脚で、「参入促進」「資質の向上」「労働環境・処遇の改善」を進めるための対策に総合的・計画的に取組み、団塊の世代がすべて75歳以上となる2025年に向け、介護人材を量と質の両面から確保していく方針を示している¹⁾。

具体的には、介護人材の必要数について、現在進行している「第7期介護保険事業計画」の介護サービス見込み量等に基づいて平成30（2018）年5月に公表された都道府県ごとに推計による介護人材の必要数（2025年度末に必要な介護人材数は約245万人となり、2016年度の約190万人に加え約55万人、年間6万人程度の介護人材を確保する必要がある）を根拠とし、多様な人材の確保に向けて、介護分野への介護未経験者（アクティブシニア中心等）の参入を促進するための「介護に関する入門的研修」の普及や介護福祉士資格の取得を目指す留学生など外国人材の受入環境の整備等による多様な人材の活用、ICTや介護ロボットを活用した生産性向上の推進による業務負担の軽減や職場環境の改善などによる働きやすい環境の整備、「人材育成等に取り組む介護事業者の認証評価制度」の創設、介護の仕事の魅力発信などによる普及啓発に向けた取組等を推進している²⁾。

一方で、公益財団法人介護労働安定センターが令和元（2019）年8月に公表した「平成30年度 介護労働実態調査³⁾」の結果によると、回答した9,102事業所の67.2%が「人手が足りないと感じている」という結果となっており、さらに、5年連続で介護事業所における人材の“不



1) 弘前医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科（〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1）

足感”が増していることについても報告されたことから、介護施設における人材確保が急務であることが窺える。また、公益財団法人介護労働安定センター青森支部が令和元（2019）年9月にまとめた青森県内における「平成30年度 介護労働者の就業実態と就業意識調査⁴⁾」によると、働く上での悩み、不安、不満等についての項目の中で、本件における回答の第1位が「人手が足りない（53.1%（前年比3%増）」）、次いで「仕事内容のわりに賃金が低い（43.3%（前年比4.5%減）」などとなっている。

国は令和元（2019）年10月に行われた消費税率の引き上げに合わせ、経験や技能を有する介護職員のさらなる処遇改善を行う「介護職員等特定処遇改善加算」制度を創設し、リーダー級の介護職員（勤続年数10年以上の介護福祉士が基本）に、月額平均8万円相当の処遇改善がなされることとなった⁵⁾。これにより、リーダーとしての役割を担う優秀で経験豊富な介護職員に対し、ほかの業種に劣らない賃金水準を実現することができると期待されるとともに、このことが課題解決に結びつく糸口になればと願うところである。

以上に挙げたように、“人手不足の解消”と“賃金の改善”については、わが青森県においても車の両輪のようにともに促進していく必要がある。また、本学を含める各介護福祉士養成施設においても、「介護」はやりがいと誇りの持てる、魅力ある仕事であることをより一層PRし、介護分野への進学及び就業促進や人材確保・定着を図ることを主眼に、今後も取組を進める必要があると考える。

以上に挙げたことを踏まえ、本年度も補助金を取得し、以下に挙げる県内3か所（東青地区、中南地区、西北五地区）の商業施設を会場に、福祉・介護の仕事の大切さと魅力を伝えるための「介護フェスタ」を実施し、今後進学を目指す小・中学生や高校生をはじめ、広く地域住民に呼びかけを行うイベントを開催したので、このことについて報告する。

3. 開催日時・場所

- 第1回目（五所川原市会場）
令和元年11月2日（土）
10：00～16：00
ELM（エルムの街）本館2F エルムホール
- 第2回目（弘前市会場）
令和元年11月9日（土）・10日（日）
10：00～16：00
イオンタウン弘前樋の口 ライトオン前特設会場

- 第3回目（青森市会場）
令和元年11月16日（土）・17日（日）
10：00～16：00
マエダガーラモール 1F 特設会場

4. 開催内容

1) 福祉〇×クイズ大会

各会場とも、午前10時30分・午前11時30分・午後3時からのそれぞれ約30分間、介護福祉に焦点を当てた〇×形式で来場者に回答してもらうクイズ大会を開催した。筆者が司会者を務め、寸劇演者として本学教職員2名（工藤准教授、相馬講師、福士講師がローテーションで出演）がそれぞれ担当した。

パワーポイントとスマートフォンのアプリケーションを活用しながら、介護保険制度に関連する問題や車いすの操作方法、認知症ケアなどに関する全10問の問題をスクリーンに映し出し、司会者の合図で来場者に挙手していただく方式を採った。正答の発表の後、問題の解説を寸劇形式で演出した。参加者には記念品として補助金を活用して作製した温湿度計を配布した。

また今回は、期間中に、園児や小学生など若年層の参加も例年に比べやや多く見られたため、当該回のクイズ大会においては、子どもたちに親しんでもらうために、冒頭で「〇〇屋さん」という手を叩いて行うアイスブレイク（ミニゲーム）を取り入れるなど工夫した。



2) MC×若手介護福祉士トークセッション

各会場とも、午前1時から約90分間、メインステージを会場にMC（進行役）と若手介護福祉士によるトークセッション（以下、トークセッションとする）を開催した。MC役は筆者が担当した。また、若手介護福祉士として各会場2～3名ずつの本学卒業生をゲストとして迎えた。

冒頭では、平岡介護福祉学科長の挨拶の後、「青森県福祉・介護人材確保定着グランドデザイン⁶⁾」の内容から、「青森県の人口の推移と高齢化」、「産業別に見た医療・福祉分野に就職する人の割合」、「安定的な人材確保及び定着を進めるための取組」などについてMCから紹介した。また、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会が掲げる「近い未来の介護福祉士⁷⁾」より、これからの介護は「虹色の7K（希望、期待、感謝、感動、感激、可能性、研究開発）」を目指していく必要があることなどを解説した。

その後のトークセッションでは、MCの進行にあわせながら、ゲストの自己紹介、仕事内容の紹介などの後、介護福祉士として働くことの楽しさや魅力、仕事する上で抱える課題や克服策などについて、「つらいこと、大変なこと、また、経験上困ったこと」・「楽しいこと、介護の仕事をしている喜び、経験上のノウハウ・キャリアアップ」といったように、一つずつ題を出しながら進めた。セッションの最後にはまとめとして、事前に準備したフリップに「私の決意」を書いてもらい、来場者に向けて自己の抱負を述べてもらった。



3) 介護福祉がよくわかるパネル展示

各会場とも、介護福祉に関する各種情報を盛り込んだ大型パネルを展示（以下、パネル展示とする）した。ステージ前の通路に、介護福祉士の内容や資格の概要、資格取得に向けたルート、就業している施設・事業所等の概要などについて、説明や図表、イラスト等によりわかりやすく掲載した大型パネル17枚に加え、本学の取組について紹介した4枚をあわせた計21枚のパネルを設置し、来場者に見てもらった。またこれにあわせて、簡単なクイズと来場者アンケートを記載した用紙と鉛筆を配布して、来場者に楽しみながら回答してもらえるよう工夫した。回答者には介護食の調理に用いられているとろみ剤やレトルト食品などを無料で配布した。



4) 介護福祉機器・用品体験・相談コーナー

会場内に、最新の福祉機器・用品を手にとって体験することができるコーナーを設け、3モーター式の介護用ベッドや各特性に応じて対応できる数種類の車いす、床走行式の介護リフト、徘徊センサー、ポータブルトイレなどを展示した。また、会場には福祉用具を扱う業者が常駐し、来場者からの介助方法や介護技術についての質問に対してミニ講座を実施するなどして説明・対応してもらった。



5) イベントリーフレット並びにオリジナル介護マンガ冊子配布

「介護フェスタ」イベントに際してのリーフレットとオリジナル介護マンガ冊子『わくわくどきどき 介護っすばらしい』を来場者に無料で配布した。このうち、リーフレットの紙面内容としては平成30年度作成のものに合わせた形で、本イベント開催に係る補助金に関連した「青森県福祉・介護人材確保定着グランドデザイン」についての紹介や介護福祉士国家試験受験までのルート図、介護人材のキャリアパス、前回実施報告などの各種情報のほか、介護施設において介護職に従事している本学卒業生2名についてインタビュー取材をしたものを記事（読みもの）にして手に取りやすい紙面となるよう創意工夫した。また、オリジナルマンガ冊子については、中学生・高校生にも読みやすい題材として、“高校生の友人同士が将来の進路として介護福祉を選択していく上での様々な思いやオープンキャンパス等に参加した経験を経て介護福祉学科を有する短期大学に進学。一度だけの人生で自分が誇りを持てる仕事に就くために、一步一步進んでいく”ストーリー展開を採用した。



6) キッズコーナー設置

過去2年間の実績から、イベントに立ち寄る客層の多くが30代の親子ずれであったことから、今年度の開催よりキッズコーナーとして「輪投げ」や「的あてゲーム」などを以前よりも拡張・設置し、子供たちがゲームで遊ぶ間に「パネル展示」や「クイズ大会」などに同時並行で参加しやすくなるよう試行した。



7) その他

会場内外（各商業施設の出入り口前など）において、本学教職員と、当日、ボランティア・スタッフとして集まった介護福祉学科学生及び学生広報グループ（GKG）の学生メンバーらが、イベント用に製作したポケット

ティッシュを買い物客に配布し、啓発を行った。また、会場内に「介護食」の試食・試飲コーナーを設け、随時提供・説明した。

5. 効果

1) 来場者アンケートの実施

来場者にアンケートを実施し、3会場合計693名から回答を得た（平成30年度比109%）。アンケート内容は例年と同様に、性別、年代、住所地等の基本属性に加えて、介護フェスタに参加する前と後とで、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化したかについて、「楽しさ」・「魅力」・「理解度」・「興味」の4項目について測定した。また、意見・感想について自由記述欄を設けた。以下、アンケート結果と分析について記す。なお、アンケートへの回答は来場者の任意である。

2) 各設問に対する回答結果

問1 回答者の性別

- ・男性296名、女性397名（計693名）

問2 回答者の年代

- ・上位順に、10歳未満169名、30歳代158名、10歳代89

名、20歳代56名、などであった。また、10歳未満及び10代以外の各年代では共通して女性の来場者が男性を上回った。

問3 回答者の住所地

- ・上位順に、青森市257名、弘前市229名、五所川原市102名などであった。

問4 参加前後の介護福祉に対するイメージ変化

- ・「楽しさ」・「魅力」・「理解度」・「興味」の4項目ともに、「楽しくなった」等の第2位に値する項目が一番多く、次いで「とても楽しくなった」等の第1位に値する項目が多い結果となった。

問5 意見・感想

- ・全年代を通して計60名の記述があった。
- ・全般的にトークセッションや福祉〇×クイズ大会、パネル展示などについて、テーマや内容、出演者及びスタッフなどに興味・関心・好感を持ったとの記述が多く見られた。また、介護福祉士の仕事ぶりや必要性等が理解できた旨の記述も見られた。
- ・介護福祉分野への進学・就職を検討している、または興味を抱いている旨の記述も数件見られた。

介護フェスタ 来場者アンケート 結果（3会場合計）__（1）

①回答者の性別

男	女	計	昨年比
296	397	693	109%

②回答者の年代

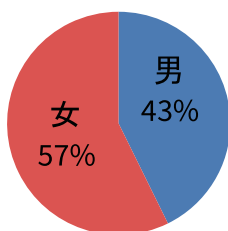
性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
男	93	44	18	69	31	7	14	16	4	296
女	76	45	38	89	50	31	29	26	13	397
計										693

③今日はこちらからおこしですか？

性別	弘前市	青森市	五所川原市	黒石市	つがる市	藤崎町	平川市	大鰐町	田舎館村	平内町
男	117	105	35	-	4	2	3	3	1	1
女	112	152	67	9	6	1	2	-	-	-
計	229	257	102	9	10	3	5	3	1	1

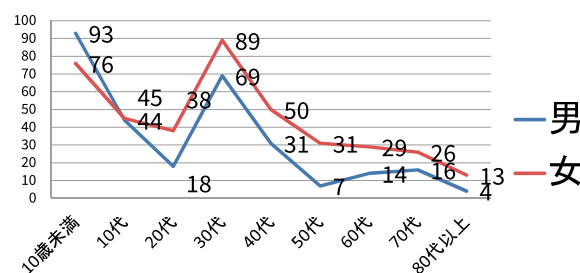
性別	外ヶ浜町	横浜町	鱒ヶ沢町	田子町	鶴田町	板柳町	蓬田村	その他県内	他県外	無回答	計
男	1	-	-	-	-	1	1	13	1	8	296
女	-	1	1	1	1	1	-	26	5	12	397
計	1	1	1	1	1	2	1	39	6	20	693

① 回答者の性別

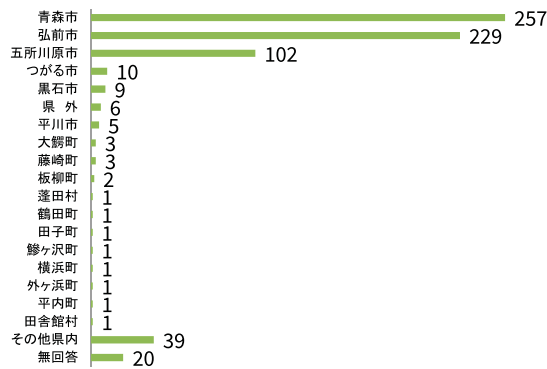


男	女	計
296	397	693

② 回答者の年代



③ 今日はこちらからおこしですか？



④介護フェスタに参加する前と後とは、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化しましたか？

・楽しさ

性別	とても楽しくなった	楽しくなった	あまり楽しくなくなった	楽しくなくなった	無回答	計
男	89	99	5	2	101	296
女	124	124	5	3	141	397
計	213	223	10	5	242	693

・魅力

性別	とても感じられた	感じられた	あまり感じられなくなった	感じられなくなった	無回答	計
男	90	97	7	1	101	296
女	126	130	2	-	139	397
計	216	227	9	1	240	693

・理解度

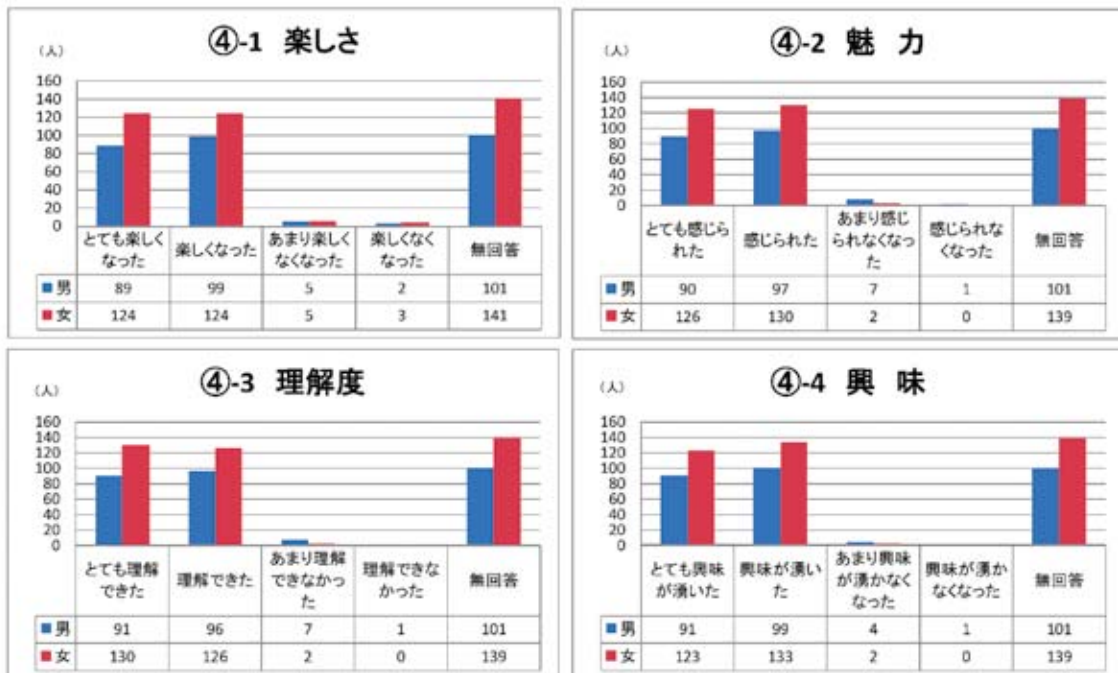
性別	とても理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	無回答	計
男	91	96	7	1	101	296
女	130	126	2	-	139	397
計	221	222	9	1	240	693

・興味

性別	とても興味が湧いた	興味が湧いた	あまり興味が湧かなくなった	興味が湧かなくなった	無回答	計
男	91	99	4	1	101	296
女	123	133	2	-	139	397
計	214	232	6	1	240	693

介護フェスタ2018 来場者アンケート結果 (3会場合計)_ (2)

④介護フェスタに参加する前と後とは、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化しましたか？



⑤その他、ご意見をお寄せください

年代	性別	内容（原文）
10歳未満	男性	かいこっているいろいろなことをしているんだな。
	男性	ありがとう。
10代	男性	リハビリゲーム楽しかった。
	男性	話を聞いて、なりたと思った。
	女性	世界にも日本の介護の魅力を伝えるきっかけを作れば良いと思った。
	女性	ヒントのボードをもう少し低くした方が良いと思います。
	女性	こたえのヒントがわかりやすかった。
	女性	とてもわかりやすかった!!
	女性	とても分かりやすかった。
	女性	介護福祉のことなどがよくわかった。
20代	男性	介護食がおもったより美味しい!!
	女性	病院勤務ですが、初めて知ったこともあり、ためになりました。
	女性	ファイト!
	女性	健康でいましょう!!
30代	女性	スライドの写真が暗くて見えづらかった。
	女性	スライドの写真が見づらかったです。
	男性	自分も30代だが親も60代なので、いざというときに介護についての知識をもっていることは大事だと思います。
	男性	もっと国・県の予算を福祉現場の方へ増やしてほしいです。
	男性	中村先生に大変わかりやすく教えてもらいました。
	男性	子供たちがよるこんでいました。ありがとうございます。
	男性	けんちんうどん、おいしかったです。
	男性	とてもすばらしかった。
	男性	車イスの事がよくわかりました。
	女性	フラッと寄ったのですが、楽しかったです。
	女性	おもしろかった!
	女性	介護福祉士めざしてがんばります。
	女性	介護について、くわしく内容を知ることができました。
	女性	子供が高校2年生。進学先として検討。
女性	将来不安です。ぜひ、働く人が増えてほしいです。	
40代	女性	勉強になりました。
	男性	若い介護職員のお話を聞いて感心した。
	男性	何回かこちらのイベント見えています。毎回とても素敵で印象もよいです。頑張ってください。パネルすごいですネ!
	男性	若い方が生き生きと動いていてすばらしい。
	男性	若手介護士のトークとてもはげみになりました。明日から私もがんばりたいです。
	男性	今まであまり考えたことのない分野で、勉強になった。
	女性	卒業生がたくさん事業所でがんばっています。介護保険について、高齢者の理解が難しく困っているのがホンネです…。
	女性	わかりやすいヒントがあるので、楽しめました。スタッフのみなさん、おつかれさまです。
	女性	アシスト付の車イスで介護員の負担が減りました。
	女性	娘(中3)が国家資格に興味をもっていた。
50代	女性	大きなパネルでみやすく明るいイメージでした。パネルでの人物紹介で、歴が3年や5年と、同一人物がなっていたのが少し残念です。
	男性	次回またのしみにしております。
	女性	成功を祈っています。
	女性	大変な仕事ですがやりがいもあと思いました。
60代	男性	老老介護中。
	男性	むずかしいな。
	女性	クイズ楽しかった。
	女性	楽しかったです。
	女性	クイズがとても楽しかったです。わりと知らないことがあってビックリ!勉強になりました。
	女性	介護福祉士の皆さん、大変なお仕事だと思いました!!
	女性	認知症と高齢の人工肛門のケア等、大変な状態にあり、家族が存在する場合、家族が頼りであり、負担大。
70代	女性	毎年、頑張ってください!!
	男性	「介護のことをもっと知らなければ」と感ず。
	男性	思っていたのとちがって良く理解できました。
	男性	自分も社会福祉協議会の関係者です。
80代以上	女性	これからお世話になることなので、ますます理解出来るようになります。
	女性	クイズ楽しかった。
	女性	この先、我が行く道のこともある事もあってとても参考になりました。説明して下さる方も親切に説明して下さいありがとうございます。
	女性	ごろうさまです。
	女性	自分も介護されるのに近づいています。
	女性	対人関係、非常にむずかしいと思う。

3) 分析

今回は昨年度同様の県内3会場において実施となったが、いずれも、友人同士や親子連れ、夫婦等でのショッピング客が多数を占めており、中でも、キッズコーナー設置等の新たな工夫・試行により、これまでに況して10歳未満・10代の子供たちとその親世代である30・40代の来場とコメントをもらうことができた。また今年度新たに制作したオリジナルマンガ冊子も若年層へ向けたアプローチの一助となり、総合的に、10歳未満・10代の来場者数が前年度比約1.4倍と効果を上げるに至ったものと捉える。他方、70・80代のシニア世代来場者に関しても、介護保険制度や認知症ケアについてのクイズ出題や、相談コーナーにおける質疑対応等により、“介護を受ける側”として今後について考えてもらうきっかけになったことがうかがえた。今後も祖父母、父母、子(孫)と、世代間に渡る「介護福祉」に関する良いイメージ醸成と各年代層における課題解決に向けたアプローチを推進していく必要が示唆された。また、前年度に引き続いて若年層への周知を進めるとともに、小・中学校への出前講座の実施等も企画・実施し、早い時期から進路に対するルート開拓に役立てられるよう取り組む必要が見出された。

6. まとめ

今回で実施3年目を迎えた「介護フェスタ」であるが、多くの来場者との対話やコメントを通じて、「介護」や「福祉」に関する理解や認識共有にはまだまだ課題が山積しており、これらの整理に向けた取組を着実に進めていかなければならないと筆者は考える。特に外国人留学生等による介護業界への参入は人材確保の観点から必須のものとして捉えることがステータスになりつつあるが、家庭あるいは一地域における“老老介護”、“認認介護”、“遠距離介護”、“過重介護”等の介護実態とのセンテンス乖離は甚だ著しいといえよう。単に数を補えばよいのではなく、そこに見え隠れする課題を整理し、そのためにどのような仕組みやシステムを構成していくかがポイントなのではないであろうか。

「地域共生社会」実現に向けて、人々の生活に不可欠な「介護福祉」に関する普及・啓発活動を推し進めていくことを通じて、介護福祉士養成施設としての資源を活用しながら、地域とともに歩む教育機関として、地域福祉の向上と福祉・介護人材確保に向けて引き続き寄与していきたい。

最後に、補助金の事務に際しご指導いただいた青森県健康福祉部健康福祉政策課、会場をお貸しくださった各商業施設の受入担当者、介護福祉機器・用品及びパネル

展示、リーフレット及びマンガ冊子作成等に際しお世話になった関係業者、ご来場くださった多くの市民の皆さまに心から感謝申し上げる次第である。

・役割分担 (敬称略)

1) トークセッション出演者 (本学卒業生)

	11/2(土) エルム	11/9(土) イオンタウン	11/10(日) イオンタウン	11/16(土) マエダガーラ	11/17(日) マエダガーラ
1人目	福士 雄大	安達 央帆	五十嵐晴香	福井 伶美	浅田 鳳美
2人目	棟方 康龍	浅田 鳳美	中野 咲	村中 恵美	成田 光治
3人目	-	-	-	五十嵐晴香	-

2) 教職員・学生スタッフ (学生広報グループ)

	11/2(土) エルム	11/9(土) イオンタウン	11/10(日) イオンタウン	11/16(土) マエダガーラ	11/17(日) マエダガーラ
企画担当	中村 直樹				
事務担当	佐藤 吉彦				
教職員 スタッフ	平岡 恭一 戸来 睦雄 山口かおる 早川 和江 中村 聡 工藤 雄行 相馬 陽子 福士 尚葵	平岡 恭一 戸来 睦雄 相馬 陽子	戸来 睦雄 山口かおる 中村 聡 工藤 雄行 相馬 陽子 福士 尚葵	平岡 恭一 山口かおる 早川 和江 工藤 雄行 相馬 陽子 福士 尚葵	早川 和江 中村 聡 工藤 雄行 相馬 陽子
学生 スタッフ	米塚 有彩 神 実優 松木 美都 長谷川綾乃 村上 心愛 山口 愛葵 館山 佳奈 遠藤 柚香 高阪恵里奈	三上 紗彩 工藤 香奈 清水 美瑠	奈良岡李玖 棟方 竜平 村上 舞花	三上 恋 渡邊 清華	-

文献

- 1) 厚生労働省：平成30年版厚生労働白書. 397-398. 2018.
- 2) 厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室：介護人材確保に向けた取り組み. https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02977.html (最終閲覧日2019/12/20)
- 3) 公益財団法人 介護労働安定センター：平成30年度「介護労働実態調査」の結果. 3-4. 2018. http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/2019_chousa_kikka.pdf (最終閲覧日2019/12/20)
- 4) 公益財団法人 介護労働安定センター 青森支部：平成30年度「介護労働者の就業実態と就業意識調査」. 7-9. 2019. <http://www.kaigo-center.or.jp/shibu/aomori/a18742260548da2e528b0131ed71398a5be5ef13.pdf> (最終閲覧日2019/12/20)

- 覧日2019/12/20.)
- 5) 厚生労働省老健局長：老発0412第8号「介護職員等特定処遇改善加算に関する基本的考え方並びに事務処理手順及び様式例の提示について」. 2019.
<https://www.wam.go.jp/gyoseiShiryou-files/documents/2019/04151130459/ksvol719.pdf> (最終閲覧日2019/12/20.)
- 6) 青森県：青森県福祉・介護人材確保定着グランドデザイン（解説編）. 13-19. 2016.
- 7) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会：近い未来の介護福祉士.
<http://kaiyokyo.net/future/index.html> (最終閲覧日2019/12/20.)